

人権だより

(令和3年度8・9月号)

川之石高校人権委員会 担当 2年次1組

2学期が始まりました。夏季休業中は、みなさんも人権作文や人権ポスターなど人権に関することを考える機会があったと思います。人権委員会でも「人権標語」を考えたので、校内に掲示したいと思っています。一部ですが、紹介します。

優しさは
心をつなげる
宝物

優しさを人に向けることはとてもいいことだし、そこから生まれる友情や人間関係は素敵だと思うから。また、人に優しくすると、自己肯定感も上がり、宝物だと思ったからです。ぜひ、そんな気持ちで友人と接してみませんか!?

(1年次人権委員)

人はそれぞれ生き方、考え方など違って当たり前だと思い、型にはめない社会を目指していけたらなと考えました。「色とりどり」は個性の違いと、カラフルな色を想像し、少しでも多くの人に元気な気持ちが湧くといいなと思ったので取り入れました。また、お互いを認め合い、尊重し合う豊かな社会になるといいなという思いも込めました。

(2年次人権委員)

個性の違い
色とりどりで
豊かな社会

皆にある明るい未来
私たちもできる
平等願う
呼びかけを!

誰にでも平等に、明るい未来はあるはずで。そんな未来が奪われた人が今でもたくさんいることを、未だ解決されていない人権問題を調べたときに知りました。私たちは知らないことがまだまだたくさんあります。真実を知ると、何か私達でもできることがあるのではないかと思いました。日々の生活の中でも、友人関係とかSNSの使い方など、おかしいことがあればきちんと伝え、良い人間関係が作れるようにしていきたいです。

(3年次人委員)

夏季研修会 参加報告



日時	令和3年8月2日(月) 9:00~12:00
場所	八幡浜高校(いずしね館)
参加者	八幡浜高校、八幡浜工業高校、三崎高校、川之石高校及び愛宕中学校の 人権委員 14名 ※愛宕中学校は見学
内容	自己紹介、DVD視聴、意見交換、各校の取り組みの発表

※ 本校からは1・2年次の人権委員4名が参加しました。参加後の感想の抜粋です。

ア DVD視聴から感じたこと

(DVD) 「差別って何やねん～歩く水平社宣言・川口泰司～」

川口泰司さんは宇和島市出身。被差別部落で生まれ、中学時代から解放運動に目覚め、高校時代には自主的な活動を展開し、部落問題を考える「宇和島友の会」を結成した方。DVDは、川口さんの講演の様子を収録したもの。

- ・川口さんの取り組み方を見ました。一つ一つの言葉に重みがあったし、部落差別の本質について考えさせられました。
- ・川口さんの部落問題の解決に対する熱い思いをみることができました。川口さんは口だけでなく、講演会を開いたり、夜中になってもちらしを配ったりして行動に移していたことがすごいなと思いました。また、「差別はする側が100%悪い」こと、「差別をされる側に差別される理由はない」ことなど、たくさんしたことについて学ぶことができました。

イ 八幡浜市意識調査より～被差別部落の方との結婚について～

- ・「まったく気にしていない」が30%について
これ以外の人は何かしら気にしているのかと思うと、自分の中に潜む差別意識を自覚し、正していくことが大事なことだと思います。
- ・「気になるが、それで結婚の理由とすることはしない」が約50%について
「気になる」と思った時点で差別意識があるのではないかと思います。

ウ 全体を通して

- ・他校の取り組みを知ることができ、とても刺激になりました。他校の『人権だより』やいじめ防止に関する取り組みなど、参考にしていきたいです。去年はコロナ禍で中止になったそうですが、今年は半日でも実施できてよかったです。